

～被害者と共に考え、共に歩む～

vol.44

# 支援センターだより



この度、鈴木雅士湖西警察署長の呼び掛けにより、「犯罪被害者等支援募金箱」をJAとびあ浜松湖西地区支店を含む8箇所に設置していただけることになり、2月15日(木)に湖西地区支店におきまして、募金箱の贈呈式を行いました。贈呈式にご出席いただいた倉田健也地区統括部長様から、「振込詐欺対策や交通事故防止対策と同じように、被害者支援センターの活動を広く知らせるお手伝いのできたらとの思いで協力させていただくことにしました」とのお話があり、一人でも多くの方の目に止まり、被害者支援に協力していただける方が増えることを願っております。

## ～目次～

- JAとびあ浜松(湖西市内)募金箱贈呈式
- 「犯罪被害者等支援講演会inしずおか2017」  
演題「生きていく決意」心と共に(清水誠一郎氏)
- 「犯罪被害者週間」活動報告
- 「命の大切さを学ぶ教室」
- 「事例検討会」開催
- 平成29年度「犯罪被害者支援ボランティア養成講座」終了
- 寄付型自動販売機・ホンデリング寄付報告
- 賛助会費納入者・寄付者ご紹介、寄付のお願い

静岡県公安委員会指定 犯罪被害者等早期援助団体  
認定NPO法人(特定非営利活動法人)

## 静岡犯罪被害者支援センター



電話相談

**054-651-1011**

受付時間：10時00分～16時00分

(土・日・祝日・年末年始を除く)

## 講演

# “生きていく決意”心と共に

清水 誠一郎氏

### 【はじめに】

まず、はじめに、本日こちらにお招きいただきました、静岡犯罪被害者支援センター様をはじめ、本日出席いただきました皆様方に、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございます。

私は、ただいま、ご紹介いただきましたとおり、平成23年3月3日、最愛の娘であります心、当時3歳半の娘を殺人というかたちで亡くした家族でございます。

本日は、6年前の事件になりますので、まず娘の事件がどのようなものであったか、一度皆様に当時のニュースの映像をご覧いただきまして、事件を一度振り返っていただきたいと思っております。DVDをご覧いただきたいと思っております。(DVDの放映)



ありがとうございました。今ご覧いただいたのが、6年前の事件の日のニュースでございます。娘は、3歳半でした。その日は、映像にありましたように、雛祭りの夜でした。

やっと10年かかりまして、うちに女の子が誕生しました。それから、夫婦で勤めていたこともありまして、保育園に0歳から心を預けました。そして何事もなく、普通にスクスクと育っておりまして、映像にありましたようにすごく笑顔が素敵で、歌を歌ったり、走ったりと、とても活発な女の子でした。

### 【事件当日】

当日、3月3日は仕事でしたが、仕事から帰り、妻と一つ上の兄(当時5歳)と4人で、いつも買い物に行く

スーパーに出掛けました。いつものように、娘と息子二人は、スーパーの左側にある本屋さんに行き、アンパンマンの絵本を二人で見っていました。私と家内は、いつもそういった感じで買い物をしておりましたので、二人で食品売場に行き、そしてその日のひな祭りに何かひとつでも娘の思い出になる物があればと思い、買い物をしていました。

すると、娘が私のところへ駆け寄って来まして、「パパ、トイレに行きたい」と。しかし、3歳半の娘がまさか一人でトイレに行けるはずもないと思い、「少し待ちなさい」と娘を止めました。しかし、何度も何度も「トイレに行きたい」と言いますので、袋詰めをしていたので、「これを袋に入れるから、あと少し待ちなさい」と、もう一度言いました。しかし娘は、「どうしても、今行きたい」ということで、それだけ言うのであればと思い、私は娘に「行っていいよ」と返事をしました。娘は、スキップをしてトイレへ向かって行きました。そのトイレは、先程の映像にもありましたように、袋詰めをする場所から直線で20メートルぐらいの距離にありました。袋詰めする場所からトイレは確認できまして、娘が柱の角を曲がるころまで私は確認をして、その足で娘を迎えに行きました。

トイレの前に行き、何度も娘の名前を呼びました。しかし、娘の返事は返ってきませんでした。そして、そこへ次男を連れて妻が来ました。「ここちゃん、いた?何度も声を掛けているんだけどいないよ」と言いました。私は男性ですので、女性のトイレは確認してはいませんでした。そこで家内に「ここちゃんは、女の子のトイレに行ったんじゃないかな。ごめんけど、女子トイレの確認をしてきてくれ」とお願いしました。当然、私は、手を引っ張って家内が出て来てくれると、トイレの前で待っていましたが、そこへ出てきたのは、家内一人でした。「ここちゃん?」と聞くと、「ここちゃんは、いなかったよ」と。しかし、トイレへ曲がる姿も確認していませんでしたし、そして、それから直ぐにトイレの前に行きましたので、トイレから出て来た姿を見ていません。絶対にトイレにいるはずだと思い、もう一度手分けして、トイレの中を探しました。

その時、通りがかりにチラッと目に入ってきたのが、

多目的トイレでした。そこのドアのマークが使用中になっていました。当然使用されていると思い、私はそのドアを叩くことはなく、通り過ぎました。仕事柄、身体障害者施設で私は仕事をしています。ドアをノックすることができなかったのは、そのせいもあります。

しかし、どこを探しても娘の姿はありませんでした。そして、1時間探した後、戻ってきた場所は、やはりトイレの前でした。どうしてもトイレの前から離れてはいけなれないと思い、また妻と二人でトイレの前に帰ってきました。しかし、そこのドアは、まだ使用中でした。私は、身体障害者の方が困っているのではないかと思い、一応ノックして確認してみようと思い、ノックしたところ、中から男性の声で「使用しています」とはっきりと返事が返ってきました。「すみません」と言い、私はトイレから離れました。そして、トイレの隣にある100円ショップへもう一度娘を探しに行きました。

その間、家内とは別々に娘を探していましたので、その時の家内と私は、連絡を取ることができていませんでした。しかし、色々な場所を探してもどうしても見つからないので、もう一度トイレの前に帰りました。すると、トイレの前にやはり家内も待っていました。そして、「やっぱりない」ということで、私たちが困っていると、そこへ警備員の方が駆け寄ってこられました。「どうかされました?」「娘がいません。もう1時間以上も探しているのですが見つかりません」と。それから、警備員の方とお店の方と一緒に、まだ見ていない場所を探しました。しかし、どこを探しても娘の姿はありませんでした。

そんな中、入口の方へ行くと、2名の警察官の方が来られていました。当然事件のことで来られたんだと、娘がいないという通報を聞いてみえられたんだと思い、妻と私は警察官の方に「ありがとうございます」と。しかし警察官の方は「なんでしょうか?」という風に聞かれました。妻と警察の方に「すみません。娘を探しに来ていただけたのではないのでしょうか?」と言うと、「すみません。私たちは別件でこちらに来ました。もしも別の件で用事があるのであれば110番をお願いします」ということで、ようやく2時間経って、妻が110番通報をしました。それから管轄の警察署からスーパーへ来られるまでに30分くらいかかったと思います。鑑識の方と刑事さん10数名の方がスーパーへ来られました。そこで状況を説明し、警察官の方に相談をしました。

しかし、その間も娘の姿を見つけることはできませんでした。私たちは警察官の指示により、自宅に帰ることになりました。「どうしてもスーパーを離れたくない」と

何度もお願いをしました。しかし、言われた言葉は「警察庁から指示をもらいました。身代金目的の誘拐だと思えます。だからお父さんとお母さんは自宅で待機をお願いします」と。私と妻は、どうしても「帰れません」と何度もお願いしました。しかしその願いは、聞いてもらえませんでした。

そして、家内と二人で自宅に戻り、警察官の方と鑑識の方と一緒に娘を待つことになりました。自宅にいた3人の息子たちは、おばあちゃんの家へ預けました。そして警察官の方が自宅に来られた後、電話に機材を取り付けられました。逆探知の機械だったと思います。何度か電話がかかってきましたが、すべて私の知り合いや妻の知り合いからの電話でした。その間、「娘がいない。どうしたらいいか」と妻と二人で話し合いました。「やっぱり、ここにいるわけにはいかない」と、もう一度警察官に、「娘を探しに行かせてください」とお願いしました。しかし、「それは出来ません。もし、犯人から電話があれば、お父さんとお母さんでないと電話対応できないから、自宅待機をお願いします」と。娘がいなくなってから4時間ほど経っていました。

#### 【変わり果てた娘との対面】

12時を回る瞬間がやってきました。私は妻と二人、寄り添い、手を握りしめ合い、娘が無事に帰って来ることだけを祈っていました。

しかし、12時を回ったころ、私の心の中に「もしもしたら、娘の命はないかもしれない」と諦めの心も出てきました。しかし、妻が必死に「大丈夫だから。警察の方が何百人も出て探してくれているから。神様が、絶対、たった3歳の子供を悪いことはしないよ」と。その妻の言葉を信じ、もう一度信じてみようと思い、必死に二人で朝が来るのを待っていました。時間が経つのが、すごく長かったのを今でも覚えています。

気付けばカーテンの隙間から、朝日の光が差し込んでいました。「やっとこれで、娘が見つかる」と私はちょっと気持ちが楽になりました。それは、視界が広くなれば、娘を探す場所も、見えない場所も、見えるようになる。そして、元気な姿で娘が帰って来ると考えたからです。しかし、何時間経っても警察官の方からの報告はありませんでした。いてもたってもいられなくなった私はもう一度、「お願いします。夜が明けたので、もう一度、娘を探しに行かせてください。二人がだめなら、どちらか一人でもいいので行かせてください」と。しかし、許しは出ませんでした。

そうしているうちに、何時間かまた時間が過ぎていき

ました。そして、突然、妻が聞いたこともない声を出して、崩れ落ちました。私は何が起こったのか分からず、「どうした?」と聞くと、左手で携帯電話を私に渡しました。「これを見て」と。そこにあったのは、「3歳女児、遺体で発見」という携帯電話に流れる文字でした。私は「娘が遺体で?」その時、自分の心を動かすことはできませんでした。絶対に嘘だと思い、警察官の方に「こういうのが出ています。これは本当ですか?」と聞くと、警官の方は、「違います。何の連絡も本部から入っていません。それは、マスコミが勝手に流した文章です。だからお父さん、お母さん、私たちが信じてください。必死で今、心ちゃんを探しています」と、すごく自信のある警察官の言葉でした。それをやはり信じるしかない。絶対に見つけてくれると。二人で信じて頑張ろうと、妻にもう一度声を掛けました。そして、携帯電話を閉じ、警察官の方の言葉をひたすら待ちました。

それから、何時間かして、刑事の方が私に「お父さん、いいですか」と呼ばれ、部屋から玄関の入口の方へ呼ばれました。「お父さん、報告があります。心ちゃんが見つかりました」と。私は、その時、感謝の気持ちしかありませんでした。「ありがとうございます。無事にみつけていただいて、ありがとうございます」と何度も頭を下げました。そして、部屋の中で待っている妻に報告しないといけないと思い、急いで部屋に戻り、「心ちゃんが、みつかったよ」と妻に伝えました。しかし、その後の指示が何もありませんでした。

それからまた20~30分くらいしたと思います。もう一度、警察官の方が私を玄関前に呼びました。「お父さん、もう一度いいですか」と。また同じ場所へ行き、「先程の報告に、すみませんが、少し間違いがあります」と。私は「なんでしょう?」と尋ねると、「今から、心ちゃんを病院へ搬送します」と。病院へという言葉に私は、怪我をしているんだ。だったら、命はあるんだと思い、「だったら、早く病院に連れて行ってください。お願いします」とそう伝えました。すると「わかりました」という返事で、私はまた部屋に戻りました。そして、これでようやく病院へ行って、手当てして、あと何時間後に娘と会えると思い、もう一度、妻へ「ごめんね。なんか怪我をしているみたいだから、病院に行くそうだから、もう一度、妻に報告しました。

それから、5分後くらいだったと思います。もう一度警察官の方に呼ばれました。三度目に聞いた言葉は、先程と一変しました。「お父さん、申し訳ございません」と頭を深々とさげられ、「申し訳ございませんでした」と私に言われました。私には、なぜ、娘を探してくれ

た、見つけてくれた警察官の方が頭を下げているのかわかりませんでした。そこで、「何ですか。何も悪いことはなさっていませんよ。頭を上げてください」と。しかし、その方はずっと下を向いたまま、「申し訳ありませんでした」と何度も何度も繰り返すだけでした。

そして、ようやく顔をあげられて言われた言葉は、「何回もすみません。先程のご報告も間違いでした。今から本当の報告をします。心ちゃんを警察署へ運びます」と。私には無事だから警察署に行くんだと。そして、そこで娘を引き取るんだと。そういう風にしか私は思えませんでした。しかし明らかに、今までの警察の方の表情とは違っていました。これは、何か違う。そして、涙を流されたのです。私には、それが何故なのかわかりませんでした。

そして、何もわからないまま管轄である熊本北警察署の地下へ、警察車両に乗り、連れて行かれました。そして、車のドアが開くと、そこにまた違った一人の男性の方が立っておられました。その方もドアが開くと、深々と頭を下げ、「申し訳ございませんでした」と、また先程と同じ言葉を私たちに掛けられました。そして無言のまま、一言だけ「こちらへどうぞ」と言われ、私と妻は訳のわからないまま、その方の後ろに着いて行きました。そして、鉄のドアを握られ、ドアノブを回される瞬間に、「お父さん、お母さん、本当に申し訳ございませんでした」ともう一度謝罪を言われ、その後に「ご遺体の確認をお願いします」と。私には、「遺体」という言葉は、なぜか自分のことではないと、自分に関わることではないと思いました。しかし、ドアを開けられ、そのまま中へ入ると、もう一度中にいた別の警察官の方から「心ちゃんのご遺体を確認してください」と。そこで初めて、娘の名前が出ました。そこにあったのは、小さなテーブルの上に緑色のシートが掛けられた何らかの物体でした。「あれは何ですか?」ともう一度聞くと、「心ちゃんです」と。



私には、なぜ娘の名前をそこで言われるのかが分かりませんでした。そして、その机の前に連れて行かれて、警察官の方が、シートをめくりました。シートに包まれた物体は間違いなく娘の心でした。顔だけしか確認ができませんでしたが、親としては十分でした。眠った感じで横になっている娘でした。声を掛けましたが、何の返事も返ってきませんでした。そして、ようやく会えた娘を妻と二人で抱きしめようと、テーブルへ近づきました。しかし、そこへ一つの手が伸びてきました。「すみません。心ちゃんには触れません」と言われました。

私と妻は「なぜ触れないんですか? やっと見つけてくださって、やっと私たちの所に帰ってきた娘を、なぜ抱きしめられないのですか?」と聞くと、そこで私たちを地獄へ突き落とす言葉が掛けられました。それは、「心ちゃんを、今から司法解剖に連れて行きます」私には、「解剖」ということは、「切り刻むだけ」という言葉にしか聞こえなくて、「命までなくなったのに、今からまた辛い目に遭わせるのか」と。その瞬間、記憶がなくなりました。気がつけば、自宅へ戻っていました。その間の記憶は今でもありません。

そして、家に着くと、何も無い、真っ暗な部屋が、そして冷たい空気が家の中にありました。ただ、そこで気がついたのは、「娘がいない」という現実でした。

### 【支援という力】

そんな中、3名の知らない男性と女性の方たちが自宅におられました。「なぜ、知らない人が私の家にいるのか?」と、当然尋ねました。「どちら様ですか?」と。すると、「熊本県警の者です」と。私は当然、「何のご用ですか? もう、私たちに何もしてもらうことはありません。娘は帰って来ませんでしたから。命も亡くなりました。だから、何をしにここにおられるのですか。お引き取り願います」と何度も言いました。

しかし、3名の方は、一歩も家から出ようとされませんでした。それは、私たちを死なせないためです。私と家内は家に帰り決めたことがありました。それは家族全員で、心の所へ行くことです。それは一家心中です。それを私と妻は決めました。当然、子供にも伝えました。子供たちも納得してくれました。家族の一番最後に生まれてきた子で、またお兄ちゃん達にもとても大切な妹でした。その子がいなくなって、あとは生きていく意味が私たちにはなくなりました。どうにかして、娘の所へ行かなければ。それだけが家族の思いでした。しかし、そこに居られる3名の方が、どうしても私たちを家族だけにはしてくれませんでした。それは、こちらに

も関わりがある方がたくさんいらっしゃると思いますが、県警の被害者支援室の方だったからです。

警察の方が言われました。「娘さんを守れなかった私たちが「今さら何ができるのか?」と言われるのは当然です。しかし、お父さん、お母さん。そしてお兄ちゃん達を、心ちゃんの所へやることはできません。守れなかった者が言っただけではいけません、私たちは清水さんの家族を守りに来ました」と。そう話されました。

1週間ほどは拒み続けました。毎日、おにぎりやお水や食べ物を届けてくれました。1週間は何一つ食べませんでした。しかし気付けば、一つのおにぎりを食べていました。

しかし、その時の状況は変わっていました。警察官と私たちが同じ家族になっていたからです。当時、娘を守れなかったという気持ちと、一人にさせてはいけないと思った気持ちが強かったのですが、知らないうちに私たちは生かされていました。

そして、それから少し経つと、また3名の別の方が自宅へ来られました。それは、熊本の被害者支援センターの支援員の方でした。私は警察官の時と全く一緒に、「帰ってください。必要はありません」と言い続けましたが、その方たちも毎日通って来られました。そして、その方たちとも、いつの間にか一緒に歩むようになっていました。そこまでなるのに2か月はかかったかなと思います。それでも、2か月でそこまでになれたのは早かったと私は思います。

今、その当時を振り返ると、妻がすごく苦しかっただろうなど。それは、先程、何度もトイレを探しに行きましたと話をしたと思いますが、私はノックして身体障害者用の個室のトイレで男性の声を聞きました。しかし、妻は、その男性がリュックを背負って、トイレから出て来たその瞬間にすれ違っておりました。私たち夫婦は、近くにいた娘を助けることができませんでした。

2か月経って、ようやく前に進めるようになってきましたが、その当時は、まず自分たちを責めました。犯人のことは、ようやく最近になって考えるようになりました。この6年間、6年経ってようやく犯人のことを考えるようになりました。それまでは、ずっと、「親として、娘を、自分の大切な子供を守れなかった最低な人間だ。生きている価値のない人間だ」とずっと妻と二人、責め続けていました。しかし、その思いがあらにも、私たちを支えてくれたのは間違いなく「支援」という「力」でした。



### 【妹を失った兄たちの想い】

子供たちの状況を少し話しますと、事件の当日から、子供たちに対して全てのライフラインを切りました。そして、家族以外の者との関わりも絶ちました。家の中へ閉じ込める生活をさせました。昼間も全てのカーテンを閉めて、テレビもつけず、なるべく外に声が漏れないように生活し、夜も電気をつけず、小さい懐中電灯の明りとか携帯電話の明かりをつけて過ごしていました。それは、私と妻が話し合って「もう子供を奪われるわけにはいかない。だから全ての世の中の魔物から絶とう。一生この子たちは、家から出すまい」との思いからでした。学校にも、友達と会うことも私達は止めました。それが2か月続いたと思います。

今日、ここに長男が来ています。私たちが動かしたのは、確かに「支援の力」もすごくありました。しかし、もう一つ動き出すために大きなきっかけがありました。それは、中学生だった長男が「お父さん、学校に行きたい」と言ったからです。私は「それはいけない」と断りました。しかし何度か「行きたい」と言って、長男が事件以来、子供たちの中で初めて、私にお願いをしてきました。しかし、妻と私は、どうしても外へ出すのが怖かったので、おじいちゃんやおばあちゃん、そして友達、また警察官の方に色々相談しました。結局、息子が「行きたい」という気持ちを汲んでやろうと。辛いのは親だけではないと。そして、やっと学校へ行かせました。

「スクールカウンセラーをつけましょうか？」と学校から言われましたが、長男は「いない。普通に生活をしたから。普通に学校に行かせて」と言い、何もませんでした。そして長男が学校に行き出すと、次男も三男も続いて学校へ行くようになりました。ようやく、家族の歯車が動き出した瞬間でした。それまでは、「どうやって娘の所へ行こうか」と、それだけを考えていました。親としてまた子どもたちに負担をかけさせてしまったと。

これは最近になって気がつきましたが、その時にもっと早く気付いてやればよかったなど。

それに気付いたのは、先月、同じ殺人被害に遭った家族と会って聞いたからです。その方も、娘の事件と同じ、妹さんを殺人被害で亡くされています。お父さんとお母さん、お兄ちゃん、妹さんの4人家族だったそうです。しかし、ある日、妹さんが同級生に殺害されました。当時その方も中学生だったそうです。子供の気持ちを私はそれまで知りませんでした。そこで私は、その時の気持ちを尋ねました。すると、「お父さんとか、おじいちゃんとか、おばあちゃんとかの前では泣きませんでした。絶対に泣きませんでした」と。「なぜですか？」と尋ねると、「お父さんが死んじゃうからです。僕が辛いのは、僕が我慢すればいい。でも、お父さんがいなくなったら、家族がまたいなくなる。だから僕が我慢すればいい。だからずっと、お父さんの前では笑顔を絶やしませんでした」と。「辛くなかったですか？」と尋ねると、「辛くないことなんてありません。ただ、お父さんの前ではできなかったんです」と。「泣いたりしませんでしたか？」と尋ねると、これは私が自分の子ども達と重ね合わせる場面だったと思います。「前で泣いてはいけないから、寝た後に布団の中に潜って、声を殺して毎日泣いた。『死のう』とも思ったけど、お父さんをこれ以上苦しませることはできないから、だから毎日、夜中に布団の中で泣いていました」と。私は、その人に聞くまで、自分の子ども達のことをわかってなかったなど、すごく自分の親としての責任のなさにもう一度気付かされました。

### 【事件から6年。今思うこと】

そして、6年が経ちました。「犯罪に遭うと、犯人をまず恨むか？」と普通の人には思います。私もそう思います。しかし、それは違います。まず責めるのは、娘を守れなかった自分です。それは、私だけでなく妻もそして3人の兄たちも全て一緒だったと思います。それぞれが、妹に対し、すごく申し訳ないとすごく今でも思っていると思います。

裁判も1年半くらい経って行いました。先ほど、映像にありましたように、私は、被害者参加制度を使い、犯人の横で、犯人に対して、自分の思いをぶつけました。

初めて犯人を見た時、「人間なのか？この人が娘を殺したのか？これが、私と同じ人間なのか？」と。犯人は、裁判所で自分の意見を言っている間、終始下を向いていました。一度も顔を上げることもなく、私の方を見ることもありませんでした。ただ、今でも覚えているのは、ずっと膝を指で撫でていた仕草だけでした。それが裁

判中の犯人の姿でした。

それと、もう一つ。犯罪被害に遭って思ったのですが、殺人をするというその人間の精神状況は、普通ではないと思います。私は娘を殺害され、当然、敵討ちを考えました。恐ろしい話ですが、犯人を殺害することも全然悪いことと思いませんでした。それが逆に、人を殺す気持ちなんだなど。よく「精神鑑定」というものを日本国はやります。私は賛否両論あると思いますが、娘を殺害された、殺された親と言えることは、病気の者は人を殺すことはできないと、私は思います。私も頭がおかしくなりました。もし、犯人が隣にいたら、私も命を取っていたと思います。そして、恐らく私も犯人と一緒に、微塵も悪いとは思わなかったと思います。なぜ、犯人をそう思えるのかということ、裁判中、犯人の映像が出ました。これは検察官が取調べをする最中でした。生年月日を間違えた犯人は、笑っていました。大声で笑っていました。それが、人間を殺す姿だと、私は今でも思います。

そして6年が経ちました。手紙が何回か来ました。当然、私は読んではいませんが、私の裁判で弁護してくれた弁護士の先生が代読をして、私に電話くださいました。「反省の文はありますか?」と聞くと「ありません」と。「何て書いてありますか?」と聞くと、「僕は、病気です。病気だったから、心ちゃんを殺害しました。悪いのは僕じゃないです。病気が悪いのです。だから、今、必死に病気を治して、ちゃんとした人間になりたいと思います」という内容だったそうです。普通、「すみません」とか「申し訳ございません」という言葉が出るかと思いましたが、それもない。それが、殺人を犯す者の姿だと私は思います。もし、神様が平等なことをしてくださるとすれば、罪を犯した者は、やはりその罰を、その罪を、しっかりと受けなくてははいけない。更正をして出ればという話がありますが、刑務所に入った犯人は、もしかしたら将来出てくるかもしれませんが。これは、日本に終身刑がないからです。更正をしてから、犯人には未来があります。しかし、うちの娘には、10年経とうが、20年経とうが、未来はありません。3歳半で、この世から天国に行きました。あの子の人生は、3年半で奪われました。しかし、人の命を奪っても、また世の中に帰れる。更正すればちゃんとした人間になる。そういうのは、個人的には平等ではないと思っています。もしも、これが平等になるなら、うちの娘ももう一度命を生き返らせてくれたらいいと思っています。子供を亡くして、家族を亡くして、苦しさは皆一緒だと私は思います。うちは、殺人で娘を亡くしました。しかし、人の死の在り方

は色々あると思います。どんな死であれ、家族はみんな苦しみます。

しかし、そこで私たちでも「生きよう」と考えてこられたのは、支えてくれる方々がいたからです。それは、私より前に事件にあった方々にはなかったことだとお聞きしたことがあります。熊本にも私たちと同じ犯罪に遭った先輩がもっといます。しかし、その方たちには、「被害者参加制度」などはありませんでした。そして、支援という形も今のように活発ではありませんでした。今思えば、この「支援」があったからこそ、私たち家族は生きてこられました。被害者を支えることができるのは「人」です。しかし、罪を犯すのも「人」です。犯人のことを悪く思っていないとか、恨んでいないわけではありません。しかし、彼も生まれてすぐは、普通の人間だったと思います。育って行く中で、ルールを間違えて、結局、最悪の状態になった。それが犯人だと。環境がそれを変えたのか、本人が弱かったのかは分かりません。しかし、それをさせないための活動が必要だと思います。そして、私たちのように生きていく道を失った家族を助けるのは、やはり、この日本の近くにいる、遠くにいる人たちです。だから、私はいろいろな場所で、こうやってお話をさせていただいています。しかし、どこでも、どこに行っても、「怖い」と思う瞬間があります。しかし、これを続けなければ、被害者がいつまでも閉じこもる生活をしなくてはならない。被害に遭った者がもっと前に出て、「苦しい」「悲しい」ということを訴えなくてははいけない。それを続けて、それを声に出させてくれるのが、私は「支援の力」だと思います。

加害者には絶対にならないと決めました。娘がなくなった時、心療内科に行きました。その時、「あなたは何をしたい?」と聞かれた時、私は、「敵討ちがしたい」と。「それはどういう意味か」と。「殺したい」と言いました。そこで言われたのは、「じゃあ、あなたも殺人犯ですね」と。意味がわかりませんでした。しかし今は、その意味が分かります。人を殺害すれば、どんな理由があろうと「殺人犯」です。私は、そういう人間には、絶対にならないと決めました。

それは、私たちよりもっと辛かった子供たちがいるからです。あの子たちが、私たち家族を支えて、引っ張ってくれました。その子供たちに、嫌な思いはもうさせられません。そして、もうひとつ応援して下さる方々もたくさん増えました。その方たちのためにも、私は必死に、苦しみながらも生きていかなければはいけないと。そして、絶対に犯罪者になってはいけないと、そう心に決めています。

## 【最後に】

もう一つお礼を言いたい方たちがいます。それは「警察官」です。

事件後、初めてテレビをつけると、冷たい川の中に頭までつけて、川の中を捜索している男性の姿を見たときです。私は誰かわかりませんでしたので、うちに来てくれていた警察官に尋ねたところ「あれは、私たちの後輩たちです。娘さんの一個だけ無い靴を一生懸命探しています」と。初めて映像をつけた時に飛び込んできたのが警察官の姿でした。色々な方に命を助けてもらいました。しかし、一番印象に残ったのは、やはり、あの水の中に入って娘の靴を探している警官の姿です。日本を守る警察官は、私たちにはすごく大きなものに、頼れるものに、そのとき誇らしいものに見えました。だから、その探してくれた警察官の方のためにも、私は犯罪者にはなりません。そして、始め考えていた、「家族を皆、ここちゃんの所に」と思うことも、今からは絶対にしません。自ら命を絶つことも考えないようにしたい。そして、いつの日にか、犯罪者が無くなって、被害者が隠れず、胸を張って笑顔で生きていける日本を造りたいと思っています。

娘は3年半、月に直すと42か月の命でした。しかし、私たち家族に大切な物をいっぱい残してくれました。そして、これからも、もっともっと私たち家族に大切な物を返してくれると思います。3年間生きた娘の映

像があります。今日、皆さんに映像を見ていただこうと思ひまして、6分ぐらいの映像なんですけど、私が個人で作りました。見づらい面がたくさんあると思いますが、今から少しご覧いただきたいと思ひます。(DVD上映)

ありがとうございました。今、見ていただいたのは娘の3年間の映像です。私たち被害者はすごく弱いです。いつも隣に大きな穴があります。しかし、それに入らないために、どうか皆さまのお力をお貸しください。そして、世の中を担っていく子供たちに、素晴らしい、幸せな日本を与えてください。どうか皆様のお力を、今後とも私たちにお貸しください。よろしくお願ひいたします。最後まで、ご静聴ありがとうございました。



## ◆◆ 感謝状の贈呈 ◆◆



講演に先立ち、多年にわたり当支援センターの活動等に対し、多大なご支援、ご協力をいただいている方々に感謝状が贈呈されました。

- 公益社団法人静岡県防犯協会連合会 様
- 静岡県企業防衛対策協議会 様
- 静岡トヨベツ株式会社 様
- 佐野印刷株式会社 様
- 川嶋晃 様





# 「犯罪被害者週間」活動報告



街頭キャンペーン活動(11/21静岡駅、11/28沼津駅、11/29浜松駅)



静岡市葵区・駿河区・清水区役所における広報活動

11/25～12/1の「犯罪被害者週間」期間中に、静岡県、警察本部、静岡市、静岡県弁護士会等のご協力をいただき、広報啓発活動を展開しました。

また、常葉大学ボランティアサークル「ジャスティス」が、JR静岡駅における街頭広報と犯罪被害者等支援講演会にスタッフとして参加いただき、若い世代の方の協力もありました。

## 「命の大切さを学ぶ教室」

静岡県から委託を受け、静岡県内の中高生を対象とした「命の大切さを学ぶ教室」を開催しました。

これからの社会を担う中高生に対し、被害者やご遺族が直接語っていただくことで、犯罪被害者等の思いを理解するだけでなく、自分の命や家族、友人等のことを考え、大切な存在であることを再認識する良い機会となりました。

開催日	学校名	受講者数
6月23日	清水町立南中学校	350人
6月29日	静岡県立榛原高等学校	720人
8月29日	静岡県立松崎高等学校	330人
10月24日	静岡市立清水桜が丘高等学校	880人
10月25日	静岡県立小笠高等学校	740人
12月8日	静岡市立由比中学校	186人



## 「事例検討会」開催

28年度から静岡県弁護士会犯罪被害者支援対策委員会の協力のもと、「事例検討会」を開催しておりますが、29年度も引き続き実施することとなり、7月28日と1月10日に静岡県弁護士会館会議室において開催し、犯罪被害相談員・直接支援員を始め、支援弁護士、警察、精神科医、産婦人科医、臨床心理士等多くの方々にご参加いただきました。

第1回目は、犯罪被害者の再被害・二次被害の防止策をテーマに、被害者と加害者の居住地が近隣の場合、再被害を受けないための今後の居住先について等事例報告がなされ、それぞれの立場から意見が出され、今後の課題も見えてきました。



第2回目は、県内市町で初めての単独条例となる「藤枝市犯罪被害者等支援条例」の制定にご尽力された藤枝市市民文化部協働政策課の大塚浩充主幹を講師にお招きし、「藤枝市犯罪被害者等支援条例の制定と運用について」と題して、条例制定に至った経緯や具体的な支援内容を盛り込んだ実施型条例とした想いやその後の運用状況についてお話をいただきました。

藤枝市を契機に、他市町でも条例整備が進み、犯罪被害に遭われた方々が、どこでも同じ支援が受けられるようになることを望むと同時に、当センターといたしましても各市町への働きかけを続けていきたいと思っております。

## 平成29年度「犯罪被害者支援ボランティア養成講座」終了

7月4日に開講しましたボランティア養成講座ですが、12月12日に最終講座が終了し、筆記試験の後、受講生一人ひとりと面接を行い、6名の方を被害者支援ボランティアに認定いたしました。

6名の方には、今後も電話相談研修やロールプレイを通して被害者やご遺族とのコミュニケーション技法等を学んでいただきながら、直接的支援員、犯罪被害相談員として永きに亘り活動を続けていただきたいと思っております。





# ~多くのご支援・ご協力ありがとうございます~



平成29年も多くの皆様から会費や寄付、更には、募金箱や寄付型自動販売機の設置、ホンデリングなど様々な形でご支援・ご協力をいただき、相談や直接的支援等の支援活動を行うことができました。心より感謝申し上げます。



セキスイハイム東海様からご寄付をいただきました。



静岡トヨペット様からご寄付をいただきました。



静岡県指定自動車教習所協会様からご寄付をいただきました。

## 「寄付型自動販売機」

5社のドリンクメーカーにご協力いただき、県内35箇所に自動販売機を設置し、売上の一部をご寄付いただきました。

**サントリービバレッジ：19台 194,287円**

矢崎エネルギーシステム静岡支店、光サービス、かの川商店、オオイカメラ、サントリービバレッジ(浜松支店、三島支店)、溝口病院、中部運転免許センター2台、市高野コミュニティー(高野マンション、高野コーポ)、SBSマイホームセンター袋井展示場、赤阪鐵工所(豊田工場2台、センタービル、中港工場、藤クサナギ)、(市)三田製作所、静岡新聞社(5月まで)

**東海ビバレッジサービス：2台 15,449円**

JA富士市ホワイトハウス、  
SBSマイホームセンター藤枝展示場

**コカ・コーラ：3台 35,540円**

加藤鉄筋工業様、蕎麦庵まえ田、  
藤野建設株式会社工事現場(10月まで)



**ダイドードリンコ：7台 267,847円**

古庄自動車学校、静岡県交通安全協会、岩水寺、藤野建設株式会社建設現場(11月~)、小林建設株式会社御殿場営業所、芙蓉ビル、藤橋本組(10月まで)

**伊藤園：1台 7,650円 信濃商事：1台 6,168円**

角丸建設株式会社工事現場(6月~) SBSマイホームセンター静岡東展示場

**全国被害者支援ネットワーク：2台 4,874円**

オムロンフィールドエンジニアリング、オムロン静岡三島事業所



建設会社様には、6ヶ月以上の建設現場等で繰り返しご協力いただいております。

## 「ホンデリング」

**寄付件数：50件 187,259円**

静岡県警察職員の皆様を始めとして、多くの方にご協力いただきました。

現在、「ギビング・キャンペーン」を行っております。この期間中にお申しいただくと買取金額が10%UPになります。これから卒業や入学、異動や退職、引っ越し等で、本やDVD等を整理する機会が増えるかと思えます。

古本等の査定を担当する株式会社バリューブックスでは、古本5冊以上あれば送料無料で集荷していますので、ぜひこの機会にご協力をお願いします。申込む際には、**当支援センターのID番号「38-N23しすおか」**と記載されている申込用紙が必要となりますので、「ホンデリング」の利用をご検討されておりましたら、まずは当支援センターTEL054-651-1021へご連絡ください。

ギビング・キャンペーン

本に想いを乗せて

期間中にお申し込みすると買取金額 **10%UP!!**

2018年2月12日(月)~3月18日(日)

### お申し込み方法

- ① 本・CD・DVD・ゲームを段ボールや紙袋に詰めます。裏面の申込書をご記入の上、本と一緒に入れます。  
※ダンボールが複数になる場合でも、申込用紙は1枚で大丈夫です。  
※古本は5冊から、書払いで受け付けます。  
※未成年の方は、保護者の方にお申し送りください。

以下の本は取り扱いませんので、ご注意ください。

ISBNのない本、百科事典、コンビニコミック、個人出版の本、マンガ雑誌、一般雑誌は取り扱っていません。



ISBN978-4-1234-5678-9 18949本

- ② 株式会社バリューブックス 0120-826-295 に電話。「ホンデリングに申し込みたいのですが…」とお伝えください。  
電話受付時間 宅配業者がご指定の時間に引き取りにうかがいます。  
月~土 10:00~21:00 ※セマリ運輸の集荷を予定します。  
日 10:00~17:00

# 支援センターの運営を支えてくださる皆様

～こころより感謝申し上げます～

平成29年7月1日～平成30年1月31日

アイウエオ順(敬称は略させていただきます。)

熱川温泉観光協会	熱海警察署	(一社)熱海市観光協会	(株)石井組
石川 令子	石淵 誠	伊豆急キールディングス(株)	磯部 三恵
(一財)赤川交通安全財団	(株)伊藤源興興相良工場	磐田警察署管内防犯協会	磐田警友会
海野 耕司	大和多 清美	大塚 由太郎	大塚 茂利
大仁警察署	大村 祐二	小笠運送(株)	岡野 真治
岡本 隆	小園神社玉次会	落合 祥己	表富士工業団地協同組合
掛川商工会議所	掛川地区安全運転管理協会	掛川地区警友会	加藤 受佳
上川 陽子	川口 眞子	川崎 晃	汗管興業(株)
菊川警察署	菊川地区安全運転管理協会	菊池 美明	絆プロジェクト
木宮 明恵	(株)クレヨンハウス	桑原 勝義	菊持 孝廣
コーニングジャパン(株)	湖西警察署	湖西地区安全運転管理協会	奥水 誠司
弁護士法人こだま法律事務所	磐城場市・小山町安全安心大会	後藤 千代子	小林道雄(株)
小林 敦子	澤本 久雄	三光木材工業(株)	静岡ガス(株)
静岡県警察官友の会	静岡県警察官友の会湖西支部	静岡県警察官友の会御殿場支部	静岡県警察官友の会静岡中央地区支部
静岡県警察官友の会静岡南支部	静岡県警察官友の会高田支部	静岡県警察官友の会裾野支部	静岡県警察官友の会浜北支部
静岡県警察官友の会浜松東支部	静岡県警察官友の会富士宮支部	静岡県警察官友の会牧之原支部	静岡県警察官友の会三島支部
静岡県警察官友の会	静岡県警察交通OB会	(一財)静岡県警察職員互助会	静岡県警察第20期特別担任生一同
静岡県警察本部外事課協会	静岡県警察本部警察相談課	静岡県警察本部愛対酒大会	静岡県警察本部捜査第一課
静岡県警察本部組織犯罪対策課	(一社)静岡県警友会	静岡県警察官親睦会	静岡県高速道路交通安全協議会
静岡県交通安全協会浜北地区支部	静岡県交通安全協会磐田地区支部	静岡県交通安全協会御殿場地区支部	静岡県交通安全協会島田地区支部
静岡県交通安全協会袋井地区支部	静岡県交通安全協会富士宮地区支部	静岡県交通安全協会牧之原地区支部	(一社)静岡県産科医師会
(一社)静岡県指定自転車教習所協会	静岡県自転車教習所協会	(公社)静岡県道警視隊	静岡県暴力防犯対策協議会
静岡市自治会連合会	静岡中央警察署	静岡中央警友会	静岡鉄道(株)
静岡トヨペット(株)	静岡南警察署	静岡南警友会	静岡南地区安全運転管理協会
静岡/ペンギン新聞社	島 三夫	島田警察署	島田商工会議所
島田地区安全運転管理協会	白井 孝一	(株)白井産業 藤枝DC	鈴木 寛
スズキ(株)	鈴木 寛一郎	鈴木 敏弘	鈴木 智子
鈴木 雅士	鈴木 通代	鈴木(株)	辻野警察署
辻野警友会	辻野ライオンズクラブ	スルガ銀行	セキスイハイム東海(株)
ホテルセンチュリー静岡	竹田 昌久	田代 徳	検査協会
田中 広子	中部電力(株)静岡支店	塚本 大	(株)天文本店
天竜地区安全運転管理協会	東海自転車(株)	(株)東京興業	沢江 勇
内藤 光雄	中田 力太	中村 徹次	仁科 善世志
新田 伸治	沼津駿東道技場協会	榛南地区職場防犯管理協会	浜本警察署
浜松東地区安全運転管理協会	原本美三	浜井地区安全運転管理協会	藤枝警察署被害者支援を真剣に考える会
藤枝警友会	藤枝遊技場協会	富士島南ライオンズクラブ	富士警察署
(一財)富士心身リハビリテーション研究所	富士宮警察署	富士宮中央ライオンズクラブ	富士宮美春ライオンズクラブ
富士宮ライオンズクラブ	星野 健児	浜江警察署	浜江管内職場防犯管理協会
牧野 光子	松澤 祐一郎	松本 喜代子	(株)丸川
マルケイ	三島警友会	峰田 武	宮澤 正美
(株)明電舎 浜津事業所	望月 俊郎	望月 威男	森 剛夫
焼津警察署	焼津市遊技場協会	焼津地区安全運転管理協会	安本 晋
飯崎 二三男	山下 栄	山本 正子	山本 正幸
(有)劇楽若むす	渡辺 忠昭	新開 健太郎	犯罪被害者支援講演会専念
匿名15件			

## 《賛助会員・寄付のお願い》

静岡犯罪被害者支援センターの活動は、皆様の寄付金等で支えられています。当支援センターの主な活動として、電話相談、直接的支援、支援員の養成・研修、広報啓発活動等を行っています。被害者支援活動の趣旨にご賛同いただき、ご支援の協力をお願いいたします。

賛助  
会費

法人・団体  
個人

1口  
1口

10,000円以上  
2,000円以上

賛助会員の方々には、広報誌「支援センターだより」などをお送りしています。また、被害者支援講演会等のイベントを開催する際には事前にお知らせいたします。

【振込口座】  
【加入者名】

郵便振替：口座番号 00870-7-50944  
NPO法人静岡犯罪被害者支援センター

ホームページアドレス

<http://www.shizuoka-hhsc.jp>

後援

静岡県警察本部  
静岡県犯罪被害者支援連絡協議会



発行 認定NPO法人  
静岡犯罪被害者支援センター  
〒420-0032  
静岡市葵区雨替町1-4-15 芙蓉ビル4階  
発行 月 平成30年 2月